

カトリック河原町教会だより

2020年5・6月

教皇フランシスコ 祈りについての連続講話 正しい人の祈り（抜粋）

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

（一般謁見演説より）

今日の講話では、正しい人の祈りについて考えたいと思います。

神は人間のためによい計画をおもちです。しかし、わたしたちは悪が存在することを日常生活の中で身をもって体験しています。それは日常的なことです。どうか忘れないでください。誘惑者は不実で、約束など守らないのです。

聖書の冒頭には、さほど目立たなくても、きわめて謙虚で信仰にあふれ、希望のあがないを表す、別の物語もあります。たとえ、ほとんどの人が残忍にふるまい、人間の歴史の大きな推進力である憎しみと征服欲にとらわれても、誠実に神に祈りをささげ、違うかたちで人間の運命を示すことのできる人もいました。神は人間をぬぐい去ろうというお考えを、ノアを前にして、思いとどまりました。

祈りは一種の防波堤のようです。この世で増長する悪のつまった洪水に対する人間の逃げ場のようです。よく考えると、わたしたちは自分自身から救うためにも祈ります。次のように祈ることは大切なことです。「主よ、どうかわたし自身から、わたしの野心から、わたしの苦しみから救ってください」。

実際、祈りは、もしそれが本物であるならば、人を暴力的な衝動から解き放ちます。『カトリック教会のカテキズム』には次のように記されています。「このような祈りは、あらゆる宗教において多くの正しい人々が実行しているものです」（2569）。祈りは、人間の憎しみが荒野野しか広げられないところに、復活の花園を造り上げます。祈りには強い力があります。祈りは神の力を引き寄せ、神の力はつねにいのちをお与えになるからです。どの時代においても、神はいのちの神であり、復活をもたらすかたです。

ですから、神の力は、世界の中で往々にして理解されず、疎外されている人々の連なりに働きかけます。世界は神の力のおかげで活気づき、成長しますが、その神の力を引き寄せるのはそうした人々の祈りです。その連なりは決して注目を浴びず、ニュースになることもありませんが、世界に信頼感を取り戻すために欠かせない存在です。ある人の話を思い出しました。その人は、過去の重要な政治家で、どの宗教も信じない無神論者でした。しかし子どもの頃から、おばあさんが祈るのを聞いていました。そのことが心のどこかに残っていました。そして人生に難局が訪れたとき、その記憶がよみがえり、こう言いました。「たしか、おばあさんはこう祈っていた」。そしておばあさんと同じように祈りはじめ、そのときに



イエスとの出会いを体験しました。祈りはつねにいのちの連なりです。大勢の人が祈り、いのちの種をまいているのです。

祈りは、ほんの小さな祈りも、いのちの種をまきます。だからこそ、子どもたちに祈りを教えることが重要なのです。十字架のしるしのしかたを知らない子どもに会うと、悲しい気持ちになります。十字架のしるしをすることは、最初の祈りなのです。それを正しく子どもたちに教えなければなりません。もしかしたら彼らはそれを忘れて、違う道に踏み出してしまうかもしれません。それでも子どもの頃に習った最初の祈りは心の中に残っています。それはいのちの種、神との対話の種だからです。

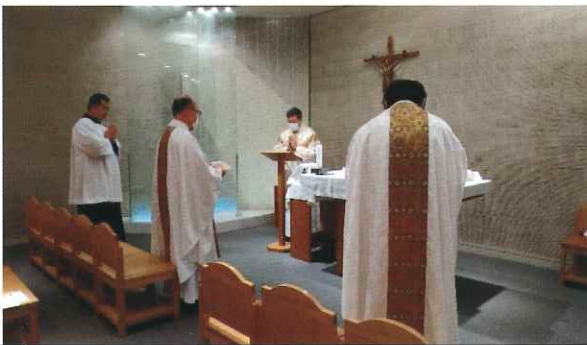
フランシスコ

2020年聖週間と復活の主日の様子

受難の主日(枝の主日)



聖木曜日 主の晩さん



イエスのパンをいただくわたしたちは、イエスの愛を目に見える形で、多くの人のもとへ運んでいかなければなりません。

聖土曜日 復活徹夜祭



絶望と悲しみの内にいる人々、病気と闘っている人々、生活の不安を抱えている人々と連帯し、自分たちの愛のある行動で、生きる希望と力を与えてくださる神をあかししましょう。

大塚司教 説教より抜粋

教区聖香油ミサ



聖金曜日 主の受難



わたしたちも、マリアのように、苦しむ人々の救いを成就された御子の死を受け止め、キリストとともに、苦しみに直面する人々の友となるのです。

復活の主日(日中のミサ)



新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方々の安息を祈ると共に、感染された方々、現在治療を受けられている方々の一日も早い回復と、医療従事者の健康を祈りましょう。

一場神父 ユン神父 ありがとうございました

新型コロナウイルス感染症と河原町教会

昨年、末中国で発見された新型肺炎が、今年1月には日本でも確認され私たちの河原町教会にも大きな影響を及ぼしました。5月現在、教会行事のすべてが自粛を余儀なくされています。教会に集う当たり前の日々は消えてしまい、散らされた羊のよう離れ離れになってしまいました。教会の建物はあるのにいつものような親しい交流の場が失われてしまったことは本当に辛いです。

一部ネット環境にある信者は、ライブ配信により東京教区カテドラル関口教会の主日ミサ中継に与ります。1回のライブ配信中の視聴数は約7千人、再生数は2万回以上あり多くの必要を満たしていると言えるかもしれません。現代の技術を使った新しい宣教の時代が始まったのでしょうか。しかし、日本全体では約44万人の信者がおり数字を見るかぎり、新しい技術の恩恵を受けているのは少数の信者に限られているようです。ネット配信で情報は伝わりますが、やはり参加している実感は薄いと言えるでしょう。そして、大切な実物のご聖体拝領が出来なくなりました。今回の事態で、何気なく過ごしていた日々がとても大きな恵みであったと知ることになりました。病と戦っておられる方と医療従事者の方々のために祈り、一日も早い感染症の終息を待ち望みます。(追記)6月20日(土)よりミサが再開され久しぶりに聖体拝領に与り、大きな喜びを感じています。

河原町教会の動き

- 2/18 聖堂入口に消毒用アルコール設置
- 3/2 ミサ(集会祭儀)・集会・講座中止
- 4/5～4/12 聖週間・復活祭の典礼非公開
- 4/20 聖堂の開放自粛
- 6/20 人数を制限してのミサ再開



祈り (神との対話)

今回の新型コロナウイルス感染症蔓延によって、私たちは、一人で祈る時間を沢山与えられました。ここでは祈りに注目したいと思います。カトリック教会のカテキズム要約には「**祈りとは心を神に上げること、あるいは神のみ心にかなう善を神に願うことです。祈りとはつねに、人間と出会うために来られる神が与えるたまものです。キリスト教の祈りは、神の子らと、限りなくいつくしみ深い御父、その御子イエス・キリスト、そして御父と御子の心のうちに住まう聖霊との、人格的で生き生きとした関係です。**」と書かれています。心を神に上げる「祈り」とは、どのようなものなのでしょう。カテキズムには祈りがほとぼしり出る場として、魂や精神、そしてなによりも「心」が重要であると書かれています。「心」は自分自身の中心で、生きる神と出会い、応答し、決断するすべての活動の発信源です。教皇フランシスコは5月13日ビデオによる一般謁見、「祈り」をテーマにしたカテケーシスの中で「**祈りはすべての宗教に属する人、そして、おそらくどの宗教にも属さない人のものでもあります。祈りは自分自身の秘めた部分から生まれます。それは霊的作家らがしばしば『心』と呼ぶ、内的な場所です。(中略) 祈りは一つの飛翔です。それは自分自身を越えていく一つ**

の願いです。祈りとは手探りで前進する『わたし』が『あなた(神)』を探し求める声なのです。」とおっしゃっています。人が自分を超越する存在(神)を探し求めその存在(神)からの答えを受け取る、願いとめぐみの対話が「祈り」だと言えるでしょう。心に神を迎える「祈り」は心を満たし、幸福でより良いものへと人を変えていきます。

カトリック教会にはイエス様が教えてくださった「主の祈り」など、伝えられた祈りが沢山あります。その他にも自分の言葉で祈ることができます。長く信仰生活を続けてこられた方は、既に自分の祈りのスタイルを持っておられることでしょう。人生のいろいろな出来事を通して作り上げ、イエス様と共に歩んだ足跡です。また、幼児洗礼の方は気がつけばもうイエス様がおられて、教会歴にそった祈りの生活があります。そして、成人洗礼の方は、洗礼前後の違いをはっきり意識できるほど、生活と価値観が大きく変化します。イエス様を自分の人生に迎える決意には、すでに祈りがあったといえるでしょう。人間の力を越えた困難に出会うとき、「祈り」という神に近づく手段を与えられたことは大きなめぐみです。いつくしみ深い神のやさしさに感謝し、心からのお祈りをおささげ出来ればと思います。(広報部員)

◇ 2020年7月～8月の行事予定 ◇

(予定は変更になる場合があります)

月	日	曜日	行事予定
7	5	日	[年間第14主日]
	12	日	[年間第15主日]
	19	日	[年間第16主日]
	26	日	[年間第17主日]
8	2	日	[年間第18主日]
	6	木	[主の変容] 日本カトリック平和旬間(15日まで)
	9	日	[年間第19主日]
	15	土	[聖母の被昇天] 7:00 ミサ 9:00、18:30 主日ミサ
	16	日	[年間第20主日]
	23	日	[年間第21主日]
	30	日	[年間第22主日]

河原町教会 ミサの時間

主日のミサ

土曜日 9:00 18:30

日曜日 7:00 10:30

* 英語 12:00 (第2・4)
(英語は7月から再開予定)

(やむを得ず中止になる場合があります)

お知らせ (敬称略)

◆ 洗礼と堅信 おめでとうございます

2020.5.10 ペトラ 織田 紀子

2020.5.16 イグナチオ 佐野 栄治

2020.5.24 マリア 李 賢娜

2020.5.30 アッシジのキアラ 謝 梓 君

◆ 堅信 おめでとうございます

2020.4.25 ベタニアのマリア 深田 喜子

◆ 転入 ようこそ 河原町教会へ

2020.4.17 クララ 越知 康子

2020.4.18 マリア・セシリア 浦部 麻里子

◆ 転出 どうぞお元気で

2020.4.2 ヨハネ・バプテスタ・ト・ラサール 平野 慶孝

◆ 婚姻 おめでとうございます

2020.5.16 マリオ・ミカエル 並川 恵三 小山 直美

◆ 帰天 主よ、永遠の安息をお与えください

2020.4.13 マリア・マグダレナ 藤本 勝子

2020.4.16 フランシスコ・ザベリオ 里中 弘

2020.5.12 マリア・ヨハンナ 西川 慈子

2020.5.15 マリア 齋藤 のぶ

京都南部洛東ブロック担当を始めるにあたって

瀧野 正三郎

4月13日付で、京都南部洛東ブロック担当となりました。菅原神父、ソ神父、Sr.ロサのチームです。教区司祭とチームを組むのは初めてです。

湖西ブロック、奈良地区では、宣教師の司祭とシスターと、三重北部ブロックでは、修道会の司祭とチームを組んできました。

今回、チェジュ教区から来られるソ神父は、すでに、日本語をマスターされているようですが、最初は、日本語学校で勉強しながら、協力司祭として働かれます。教区司祭と一緒に住むほうがいいと考え、山科教会と一緒に住むことを選びました。

河原町教会は出身教会であり、高校1年生の春に洗礼を受ける前、中学1年生の時から、日曜日のミサに参加していました。洗礼を受けてからは、ラテン語のミサでしたので、ミサ答えの言葉を暗記して、侍者奉仕をしていました。

共同宣教司牧では、司祭・修道者だけでなく、信徒の方もチームとして、一緒に働いて下さることを期待しています。



カトリック河原町教会だより 2020.5・6 カトリック河原町教会広報部発行

〒604-8006 京都市中京区河原町三条上る下丸屋町423 発行責任者:洛東ブロック司牧チーム

TEL:075-231-4785

FAX:075-211-8021

URL:<http://CatholicKawaramachi.Kyoto>